

国語【発展コース】 担当：岡村

物語「世界でいちばんやかましい音」の学習では、主人公の変容に焦点をあてて学習を進めました。『主人公の〇〇が“山場”を通して大きく変わる』という物語の型を学び取った後は、それぞれが『世界でいちばん□□□な話』というオリジナルの物語の制作に取り組みました。『世界でいちばん心が優しい女の子の話』、『世界でいちばん猫がいる村の話』など、15人、みんなのアイデアが発揮されて、どれも魅力的な物語に…。お互いに作品を交換し評価し合う時間を持ったのですが、思わず読みながらニヤニヤしてしまう子たちの姿を微笑ましく感じました。

次の『新聞記事を読み比べよう』の学習では、まず言葉を巧みに使いこなすというめあての中、1枚の写真を見て題名（キャプション）を考えました。「プロリスラー」、「どんぐり泥棒 参上！」など、プロ顔負けの言葉の選び方に大笑いでした！

学習のまとめとして、「取材→記事を書く→読者に届ける」という新聞記者としての活動を体験するという事で1年生のアイガモの飼育を取材に行かせていただきました。1年生のかわいさを記事にする子、アイガモを飼育することになった経緯を村松先生に取材する子たち、同じ場所で取材をしているながら、記事にしたいことが違う、これって、とっても面白いことですよ！



各コースでの取り組みや授業での様子、英語の最新情報、中学入試についてなど、様々な情報をお知らせさせていただくため、月に1回程度『コース通信』を発刊いたします。今号では、『各教科での活動（6月分）』『2020年度入試を振り返って』を掲載します。

国語【進学コース】 担当：山本

6月の前半は、進学コース・発展コース一緒に学習しました。まず、学習したのは、「動物たちが教えてくれる海の中の暮らし」という、動物学者の佐藤克文さんが、バイオロギングを用いて海の生き物の生態を書き下ろした説明文です。この学習の大きな目標は、要旨をとらえることです。そのために、文章の構成を考えなくてはなりません。4年生までは、はじめ・中・終わりと呼んでいましたが、序論・本論・結論と呼ぶことを習いました。そして本論は、ここでは3つに分かれることも、確認しました。それぞれの段落の内容を読み取り、構成を整理した後、120字程度を目標に、要旨をまとめました。かなり削らなければ、120字にはおさまりません。キーワード・キーセンテンスは落としていないか、余分なことをだらだらと書いていないかなどを考えながら、みんな集中してえんぴつを動かしていました。

その後、コース別の学習がスタートしました。「世界でいちばんやかましい音」では、物語の構成をとらえる学習をし、それをもとに、自分も物語を作って読み合う学習をしました。友だちに読んでもらうのは、少し恥ずかしかったようですが、「おもしろかったよ。」「こんな話を書けるなんてすごいなあ。」という声に、自信もついたようです。今後も、小説や映画を楽しむときに、山場はどこかな？とか、この話の構成はどうなっているかなど、考えながら読んでみると、また新たな楽しさに出合えるかもしれません。

理科 担当：市原 進学コース演習担当：朝井

「進学コース・発展コースとも市原が週3時間、同じ授業を行っています。進学コースは、それに加えて朝井による週1時間の演習があります。

共通内容の学習として、6月は、「メダカのたんじょう」の学習で、メダカの卵が受精してから一日一日変化して、心臓が動き出し、目がくっきりとしてきて、体が動き出し孵化（ふか）するまでを教室と理科室のメダカの卵で観察しました。水草をしごいて卵を採ることも体験し、孵化した稚魚（ちぎょ）が泳ぐのを「かわいい！」と声を上げていました。

「ヒトのたんじょう」では、ビデオを見ながら、小さな受精卵から子宮の中で赤ちゃんが育っていくように驚いていました。



また、田植えと校内の植物観察を行い、葉に字や絵を描いたように見えるハモグリバエの葉を食べ歩いて道筋を見つけるなど、自然体験も行いました。

算数【発展コース】 担当：中川

コロナウイルスの影響で3月から休校が続きました。その中で、4月からまなBOXを使いながら、問題集（ポープ）での一週間の課題を指示し、その成果を児童一人一人が各自写真を取り、それをアップする方法で課題のチェックを行ってきました。その後、5月連休明けから、zoomにより授業を展開し、6月からは普通の授業を展開していました。

進捗としては、整数小数の仕組み、直方体・立方体のかさ、比例、小数のかけ算・わり算まで、4月から6月まで学習してきました。オンライン等の授業での定着度がやはり、普通の対面授業より悪いので、いまは、その定着を図るために、最初からの復習に時間をかけています。特に小数のかけ算・わり算での小数点の打ち方に苦労している児童がいますので、根気よく、この7月もその復習に時間を多くさきたいと思えます。

小数、次に来る分数の計算力は、算数の力をアップさせる重要な道具になります。さらなる計算力をつけるべく訓練をさせたいと思えます。また、児童一人一人、自分で計算練習を積んで、自分でも計算力をアップさせてほしいと思えます。



算数【進学コース】 担当：朝井

6月前半は、「小数のわり算」「線分図を使った応用問題」を学習しました。「小数のわり算」は、5月にzoomを使った授業で学習した単元でした。毎日の課題にまじめに取り組んでいた人と、そうでない人の差がはっきりと表れています。アドバンス問題集をしっかりとやり直しましょう。

「線分図を使った応用問題」は、進学コースで4年生のときから取り組んでいる課題です。ていねいな図をノートに大きく書いて、図を利用して考えるようにしましょう。

6月後半からは、「合同な図形」「図形と角」に入りました。「図形と角」は、4年生のときにも学習したところなので、どんどんハイレベル問題にもチャレンジしていきます。頭脳をフル回転させて問題に取り組みましょう。

7月中ごろから、「整数の性質」に進む予定です。近年の中学入試において、非常に重要視される分野の入り口です。油断せずに、着実に学習を進めましょう。

英語【発展コース】 担当：丹澤・Kevin

6月は音読リレーに挑戦しました。（動画は下のQRコードを読み取っていただき、ご覧ください！）音読リレーは、国語の時間に経験したことがある子どもたちですが、それを英語でやるとなると、難しさが倍増します。ただ、英文を読むだけではないので、意味調べからはじまり、発音チェック、読み方チェックなどをグループで行い、準備を進めてきました。発表の時には、全員が心を一つにして集中し、バトンを渡していきます。4年生の時とは比べものにならないくらい成長を見せてくれました。7月は次の課題の音読リレーを続けながら、国際交流（フィリピンの方と）の準備をしていきます。今後も素敵な発表ができるように頑張りますのでご期待ください！



『2020年度入試を振り返って』 入試企画室長 吉永 雅和

2020年度私立中学入試では、少子化が進むなか、大阪では久しぶりに実受験者数が増えました。大きな要因としては、①大学入試改革による受験への不安 ②中学校入試方式の多様化の2点が考えられます。

1点目については、近年大学入試制度が二転三転していることも含め、新しい入試制度に対する漠然とした不安をお持ちの方が増えていらっしゃる事が推測されます。その結果進学指導・進路指導に手厚い私立学校を選らばれるご家庭が増えている。なかでも大学進学がほぼ保証される大学付属校の人気の数年前から高まっています。

2点目については併設中学校にもあてはまりますが、中学入試の方式が多様化しています。特に小学校での教科化の流れをうけて、英語を入試科目とする中学校がかなり増えてきたことで、例えば中学受験対策に取り組んでいなかった英会話教室に通っている児童が受験を考えられるようになるなど、受験そのものへのハードルが下がってきたと言えます。

2021年度入試では、新型コロナの影響がどのように出るかはまだ不透明ですが、休校期間中の私立学校の対応への評価が高まっていることもあり、大きな減少は考えにくいのではないかと予想しています。

	2016	2017	2018	2019	2020
受験率	9.2	9.3	9.5	9.6	9.8
受験者数	17210	16962	16744	17201	17404



	2016	2017	2018	2019	2020
加点・優遇	7	15	26	42	48
英語入試	10	17	28	34	41



【7月・8月の私立中学校

外部相談会】

※箕自小調べですので、行かれる際には

ご家庭で詳細を調べてください。コロナ感染状況によっては、変更の可能性あり

日時	内容	場所	
7月19日 日	サンケイリビング	中学・高校 川西地区 進学相談会	川西アステホール
	関西パド	私立中学・高等学校 合同説明会	豊中文化芸術センター
7月23日 木祝	朝日新聞社	中学・高校進学サポートフェア大阪	梅田スカイビル
7月24日 金祝	朝日新聞社	難関私立中学・高校進学相談会	ハービス大阪
8月29日 土	茨城・高槻教育研究会	中高入試相談会	高槻現代劇場3階
8月30日 日	サンケイリビング	中学・高校梅田地区進学相談会	阪急グランドビル26階